

専大校友を訪ねて 激戦を制して初当選 台東区長となった 吉住弘さん(昭39・経済)



「活力のある、元気の出る街づくり」を掲げ、2月の東京・台東区長選に初当選した吉住弘さん。区議連続7期、都議1期という知名度を生かし、過去最多の5人が立候補した激戦を制した。

最盛時32万人だった同区の人口は、現在15万5000人に減少。観光の名所・浅草や上野もかつてのにぎわいはない。

「まずは人口を18万人にしたい。福祉や医療の充実、子育て支援などで、若い人が住みやすく、高齢者が闊歩できる魅力ある街づくりを目指します」と意欲を燃やす。

台東区下谷の生まれ。専大附属高(当時・専大附属京王高)から入学した。当時の専大の学び舎は、1年次が生田、2年次からが神田で、特に神田界限は「まさに学生街の活気にあふれていました」と懐かしむ。古本屋街を歩き回ったこと。英語の単位取得に苦勞したこと。野球の応援に神宮球場に通ったこと…。学生時代の思い出は尽きないが「4年間、絶えず友人に囲まれていた」ことが最大の財産となった。今回の区議会選でも「校友はじめ多くの方々が手伝ってくれました」。校友で「寅さん」の物まねが人気の原一平さん、校友ではないが女優の浅香光代さんも応援に駆けつけてくれた。

卒業後、しばらく会社勤めを経験。政治家への道は74年(昭49)、台東区議選に立候補し初当選してから。同区議会議長だった父・倉勝さんの急逝を受けてのことだ。「子供のころ、忙しい父の姿ばかり見ていたので、政治家にだけはなりたくなかった」のだが、生まれ育った“故郷”に恩返しを、と決意。以来、幅広い交友関係とともに知識と経験を積み上げ、強固な政治基盤を築いていった。

妻・恵子さんと1男1女の4人家族。好きな言葉は先憂後楽。「母校愛はだれにも負けないつもりですが、最近の専大は元気が足りなくて残念。野球も駅伝も、もっと活躍して欲しいですね」

〔3月27日/ニュース専修11面〕